

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 7 年 6 月 16 日現在

機関番号：31201

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2024

課題番号：20K14192

研究課題名（和文）災害支援者支援に関わる心理職のキー・コンピテンシーの解明

研究課題名（英文）Identifying the key competencies of psychological professionals involved in support for post-disaster recovery workers

研究代表者

藤澤 美穂 (Fujisawa, Miho)

岩手医科大学・教養教育センター・准教授

研究者番号：60625838

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、心理職による支援者支援に必要なコンピテンシーの特定が目的である。これにより、多職種連携による効果的な支援者支援の実現の一助となることを目指した。この探求のため、文献調査、インタビュー調査、質問紙調査を実施した。災害支援者支援経験をもつ実践家に、実践内容に関するインタビュー調査を実施し、その結果と文献調査結果に基づき、心理職による災害時支援者支援コンピテンシー項目案を作成し、災害経験を有する対人援助職に質問紙調査を実施した。調査・分析はデルファイ法を用いた。結果、最終的に合意を得た項目は53項目中46項目となり、心理職の災害時の支援者支援コンピテンシーは14領域46項目に集約された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の質問紙調査では災害支援経験を有する者を対象とし高い回答率を得た。分析の結果、心理職の災害時の支援者支援コンピテンシーが特定され、災害時支援者支援において発揮することが期待される心理職の専門能力を列挙できた。

災害後のこころのケアに関与する心理職は、横断的領域での活動が長期的に見込まれる。例えばDPAT活動やグループケア領域、心理教育を通じた支援など多岐にわたる。これらの幅広い領域それぞれに支援者がおり、その支援の特性に応じた支援者支援を提供する必要がある。本研究により今後の課題として、災害支援者支援が必要とされる領域や文脈とコンピテンシーとの適合の探求の析出に至った。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to identify the competencies of psychological professionals involved to support for post-disaster recovery workers. The goal was to contribute to effective support through multidisciplinary collaboration. To this end, literature reviews, interviews, and questionnaire surveys were conducted.

Interviews were held with practitioners experienced in supporting disaster relief workers, focusing on their practical experiences. Based on the interview and literature review findings, a draft list of competencies for mental health professionals in disaster contexts was developed. Subsequently, a questionnaire survey was administered to human service professionals with disaster experience. The Delphi method was used for analysis. As a result, consensus was reached on 46 out of 53 proposed items, which were organized into 14 competency domains.

研究分野：臨床心理学

キーワード：災害メンタルヘルス 支援者支援 災害支援 心理職 コンピテンシー 多職種連携

1. 研究開始当初の背景

東日本大震災等の深刻な災害により、被災者の心身健康面へのサポートや孤立予防、コミュニティ形成に関する課題が山積され、支援者の負担は過重となっている。被災地には「無傷な救済者」など存在しない¹⁾とされ、被災者支援を担う支援者への適切なサポートは重要課題である。しかし支援者特有の問題として、専門職であるがゆえに、自らの傷つきを表現できにくく援助を求めにくいことが指摘されており、災害時においてその傾向はますます顕著となる²⁾。支援者支援としては、救済・支援活動に従事する自衛隊員や消防救急職員等の災害救済者の惨事ストレスケアがその1つとして挙げられる。惨事ストレスとは、救済・支援活動に関与する支援者が、災害や被害現場での職務を通して受ける精神的ストレスを指す。惨事ストレスに直面した結果としてPTSD (post-traumatic stress disorder ; 心的外傷後ストレス障害) やうつ等の精神疾患、業務への意欲低下、組織内人間関係の悪化などが指摘されている³⁾。この惨事ストレスを災害直後の問題として位置づけるならば、長期的な支援活動による支援者のストレスとしては代理受傷³⁾、惨事現場やストーリーの追体験・役に立たないという無力感・疲労・バーンアウト⁴⁾が指摘される。そういった支援者へのケア的な視点や教育的アプローチを含めたケアモデルによる体制作りが必要となる⁵⁾。

近年「支援者支援学」が提唱され⁶⁾、災害支援者をどう支えていくかについて関心が高まっている。また支援者向けのサポートガイドも作成され⁷⁾、災害精神医学に関する書籍においても支援者メンタルヘルスや支援者支援の章が設けられ、必要性が強調されている⁸⁾⁹⁾。

支援者は支援活動の中で三種のストレスを受けるとされ、それは(1) 危機的ストレス(惨事ストレス)、(2) 累積ストレスとして、災害支援に由来するストレスの蓄積、(3) 基礎的ストレスとして、普段と異なる状況下によるものである⁶⁾。災害に関わる支援者が事前に備えを適切に行うこと、社会的・専門的な支援を受けることは、支援活動後のバーンアウトを減少させ、災害支援活動から充足感を得るためにも必要である¹⁰⁾。そのため、上記三種のストレスを抱える支援者をサポートするための具体的な知識、態度、技能、すなわちコンピテンシーを明らかにする必要がある。

2. 研究の目的

本研究は、心理職による災害支援者支援に必要なコンピテンシーを明らかにすることを目的とする。DPAT(災害派遣精神医療チーム)構成メンバーの一員ともなり、今後医療保健、福祉、教育、産業、司法矯正などの多領域においての活用拡大が見込まれ、災害時に支援者支援に関わる職種のひとつである心理職においては、2015年に公認心理師法が制定され、そのカリキュラムでは「災害時等に必要となる心理に関する支援」が含まれた。災害支援活動中、支援者は大きなストレスに直面することが従来から指摘されており、災害支援者へのサポートは災害メンタルヘルスにおける重要課題の一つである。しかし標準化された手法が確立されておらず、職種に応じた必要となる知識、態度、技能も示されていない。災害支援者支援における心理職のコンピテンシーを明らかにすることにより、多職種連携による効果的な被災地支援・支援者支援の実現の一助となることを見込まれる。

3. 研究の方法

本研究は、災害時において支援者支援に関わる職種のひとつである心理職(公認心理師、臨床心理士等)において、支援者支援に必要なコンピテンシーを特定することを目的としたものであ

る。本研究では主に3つの調査に取り組んだ。

1) 文献調査：①災害支援者支援についてこれまでの実践報告の検討、②災害支援や災害支援者支援に関する多職種連携の実際に関する検討、③災害支援者への支援として取り組まれた各種心理教育の検討。

2) 災害時の支援者支援経験者へのインタビュー調査：災害支援者支援実践家へのインタビュー調査をおこない、その回答を分析した。

3) 災害支援経験者を対象とした質問紙調査とその解析：災害時に心理職に必要な支援者支援コンピテンシーについて、デルファイ法による質問紙調査を実施し、項目の選定をおこなった。

4. 研究成果

1) 文献調査

①-1 本邦における災害支援者支援に関して、どのような内容・方法でなされているのかを整理すること、そして実践課題を俯瞰することを目的に、心理職による災害支援者支援について、これまでの実践が報告された論文のレビューをおこなった。結果、これまで取り組まれた支援者支援内容として、心理教育等の知識提供型支援、ストレスマネジメント演習等の体験型の支援、体験グループやふりかえりの会などグループによる支援、等の実践が確認された。また、今後の支援者支援にあたっての実践課題として、支援者への知識・技術の提供、支援者のメンタルヘルスへのサポート強化および組織的対応、リラクゼーション等身体からのアプローチの活用、専門用語を「翻訳」して伝えるスキルの向上、等を見出すことができた。また本検討を通し、本邦においては「支援者支援」の用語・概念自体の理解が不足している現状であることが明らかとなった。

①-2 日本国内の文献を対象に「支援者支援」として取り組まれている実践を把握することを目的に、文献調査をおこなった。結果、(1) 支援者支援を扱う論文は東日本大震災発生後の2011年以降増加傾向にあること、(2) 2020年から2023年に刊行された支援者支援に関する文献においては実践報告が最多であること、(3) 支援者支援の実践は平時・有事を通じてなされており、「支援者」には対人援助職の他にもクライアントの家族を想定した取り組みが行われていたこと、そして平時・有事を通じメンタルヘルス支援とスキルアップ支援が実践されていたこと、等を明らかにした。

②-1 災害支援と災害支援者支援では、多くの職種が連携しておこなう活動が基本とされる。そのため、職種間連携の形態を整理し、またそれらの形態の特性に応じた災害支援者支援への応用の検討のため、文献のレビューをおこなった。結果、(1) 職種間連携チームモデルとして、マルチディシプリナリーモデル、インターディシプリナリーモデル、トランスディシプリナリーモデル（以下、超職種チームモデル）に整理された、(2) 災害支援者支援における超職種チーム展開の可能性として、支援対象となる支援者の専門性へのサポート、生活者としての支援者への産業保健アプローチ、そして生活者としての支援者を内包する組織に対するコミュニティ・アプローチの3点が挙げられることを指摘した。

②-2 東日本大震災発生後の2011年から2022年の文献を対象に、災害支援者支援の職種間連携の形態について文献調査をおこなった。23件の文献検討の結果、超職種型アプローチによる支援者支援は3件確認され、約半数で連携形態の明示がされておらず、連携形態の検討をおこなうことは困難であった。これにより、災害支援・支援者支援においては職種間連携が推奨されるものの、その連携形態への関心は高くない現状であることを指摘した。

③ 災害支援者への支援として取り組まれた各種心理教育の報告を含んだ国内文献を検討し、心理教育的支援の現状把握と今後の課題の検討をおこなった。災害支援者支援の実践報告が大きい

く含まれた 23 件の文献を検討した結果、「心理教育」との記載があった文献は 3 件で、いずれも筆頭筆者は心理職であり、支援対象となった支援者は行政職員や消防職員、被災者支援に関わるスタッフ等であった。心理教育内容としては職員のメンタルヘルス、支援者のストレスの軽減、セルフケアの促進、トラウマティックストレスに関する内容等であった。支援者を支えるための取り組みとして、正確な知識の獲得と対処技能の修得につながる心理教育の実践が重要となることを指摘した。

2) 災害時の支援者支援経験者へのインタビュー調査

災害支援者支援にこれまで関わってきた計 5 名の実践家に、その実践内容に関するインタビュー調査をおこない、特に支援者支援の実践内容と職種間連携について尋ねた。結果、(1) 本調査対象者がおこなった支援者支援は、技術支援、業務支援、心理教育、相談対応、相談勧奨、プラットフォーム、休憩時間と場所の確保、メンタルヘルス支援体制強化の 8 つに分類され、文献調査①-1 で得られた結果と大凡一致した、(2) 文献調査②-1 で明らかになった 3 つの職種間連携モデルのすべての形態が実践されていた、(3) 支援者のメンタルヘルスのサポートや組織への支援では、超職種連携による職種横断型支援が中心であった、ことを明らかとした。

3) 災害支援経験者を対象とした質問紙調査とその解析

災害時に心理職に必要となる支援者支援コンピテンシーを特定するため、インタビュー調査結果ならびに文献調査①-1 の結果をもとにコンピテンシー項目案を作成した。そして災害経験を有する対人援助職に対し質問紙調査を実施した。調査と分析はデルファイ法を用い「合意率」を設定し、合計 3 ラウンドの調査を実施した。第 3 ラウンドの回答者数は 98 名（心理職 41 名、心理職以外 57 名）であった。結果、心理教育、相談対応、相談勧奨、休憩時間と場所の確保、体験型演習、グループによる支援、既存支援体制の理解・状況のアセスメント、支援者支援をおこなう心理職自身のセルフマネジメント、支援者支援にあたっての心構えの категорияにおいて、構成する項目すべてが合意率を満了した。最終的に合意を得た項目は 53 項目中 46 項目となり、本調査の結果、心理職の災害時の支援者支援コンピテンシーは 14 領域 46 項目に集約された。

参考文献：

- 1) 安克昌,2011,心の傷を癒やすということ,作品社.
- 2) 藤信子,2009,災害支援者のためのグループ,臨床心理学,9(6),735-739.
- 3) 加藤寛,2013,惨事ストレスと代理受傷～支援者が受ける心理的影響,新薬と臨牀,62(3),590-591.
- 4) 元永拓郎,2007,援助者・救助者のストレス,こころの健康,22(2),58-65.
- 5) 大塚耕太郎他,2013,東日本大震災以降の岩手医科大学におけるこころのケア活動について,精神医学,55(3),297-302.
- 6) 高橋晶編著,2018,災害支援者支援,日本評論社.
- 7) 矢永由里子編,2016,支援者のためのサポートガイド,風間書房（基盤研究（C）25516013 成果物）.
- 8) 高橋晶他編,2015,災害精神医学入門,金剛出版.
- 9) スタッガード,F,J.他編著,富田博秋他監訳,2015,災害精神医学,星和書店.
- 10) Tominaga, Y. et al.,2019, Secondary trauma and posttraumatic growth among mental health clinicians involved in disaster relief activities following the 2011 Tohoku earthquake and tsunami in Japan. *Counselling Psychology Quarterly*, DOI: 10.1080/09515070.2019.1639493.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 藤澤美穂、小黒明日香、高橋文絵、高橋智幸、赤平美津子、大塚耕太郎	4. 巻 34
2. 論文標題 災害支援者支援に関わる心理職のコンピテンシー特定に関する調査研究	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 日本社会精神医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 12-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤澤美穂、小黒明日香、高橋文絵、高橋智幸	4. 巻 58
2. 論文標題 本邦における“支援者支援”の実際に関する文献検討	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 岩手医科大学教養教育研究年報	6. 最初と最後の頁 63-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 藤澤美穂、高橋文絵、小黒明日香、高橋智幸	4. 巻 57
2. 論文標題 災害支援者支援における職種間連携に関する文献検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岩手医科大学教養教育研究年報	6. 最初と最後の頁 81-91.
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 藤澤美穂、高橋智幸、小黒明日香、高橋文絵	4. 巻 56
2. 論文標題 災害支援者支援における超職種チームの有用性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岩手医科大学教養教育研究年報	6. 最初と最後の頁 55-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 藤澤美穂、小黒明日香、高橋文絵、氏家真梨子、畠山秀樹、高橋智幸	4. 巻 55
2. 論文標題 心理職による災害支援者支援に関する文献検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 岩手医科大学教養教育研究年報	6. 最初と最後の頁 79-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 藤澤美穂
2. 発表標題 岩手における職能団体活動の展開から課題と可能性を考える
3. 学会等名 日本心理臨床学会第42回大会 自主シンポジウム「心理臨床家が被災地で何ができるのか? (4) -被災地入りから中長期支援における課題と可能性-」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤澤美穂、高橋智幸、小黒明日香、高橋文絵
2. 発表標題 災害支援者支援として取り組まれる心理教育の現状に関する文献検討
3. 学会等名 第41回日本社会精神医学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤澤美穂、小黒明日香、高橋文絵、大塚耕太郎
2. 発表標題 災害支援者支援における多職種・超職種連携を考える
3. 学会等名 第1回公認心理師学会学術大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	高橋 文絵 (Takahashi Fumie)		
研究協力者	小黒 明日香 (Oguro Asuka)		
研究協力者	高橋 智幸 (Takahashi Tomoyuki)		
研究協力者	大塚 耕太郎 (Otsuka Kotaro) (00337156)	岩手医科大学・医学部 神経精神科学講座、災害・地域精神医学講座 (31201)	
研究協力者	赤平 美津子 (Akahira Mitsuko)	岩手医科大学・災害・地域精神医学講座 (31201)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------